

## V331a X線分光撮像衛星 (XRISM) 搭載軟X線撮像装置 (Xtend) の開発の現状 (4)

内田裕之, 田中孝明, 鶴剛 (京都大学), 林田清 (大阪大学), 富田洋 (ISAS/JAXA), 森浩二 (宮崎大学), 中嶋大 (関東学院大学), 野田博文, 松本浩典, 常深博 (大阪大学), 村上弘志 (東北学院大学), 山内誠, 甘日出勇 (宮崎大学), 幸村孝由, 萩野浩一, 小林翔悟 (東京理科大学), 岡島崇 (NASA/GSFC), 石田学, 前田良知, 堂谷忠靖, 尾崎正伸, 吉田鉄生 (ISAS/JAXA), 内山秀樹 (静岡大学), 山岡和貴 (名古屋大学), 信川正順 (奈良教育大学), 信川久実子 (近畿大学), 平賀純子 (関西学院大学), 他 XRISM/Xtend チーム

X線分光撮像衛星 (XRISM) は2021年度に打ち上げ予定である。搭載する観測機器のひとつ、軟X線撮像装置 Xtend は、X線ミラー (XMA) と CCD カメラ (SXI) で構成され、4枚の素子を  $2 \times 2$  に配置することで 0.4–13 keV において 38 分角四方の広視野撮像を実現する。我々は搭載予定のフライトモデル (FM) 4素子について、2019年8–9月にかけて地上較正試験を実施し (2020年度春季年会にて報告)、キャリブレーションに必要なゲイン・電荷転送非効率 (CTI) 等の各種パラメータの決定や応答関数の構築を進めている。また、Xtend チームでは、これと並行して、ハウジングやエレクトロニクスなど各コンポーネントの製作および機能検証試験を随時行っている。本講演までにコンポーネント毎の試験は概ね終了し、各部品の組み立ておよび噛み合わせ試験を順次進める予定である。そこで今回の講演では、Xtend の製作・試験・解析の最新状況および、衛星試験に向けた今後の見通しについて報告する。